

片ニ限ルヘシ

故障簿

第四十六條 停車場ニハ故障簿ヲ備ヘ置キ公衆ノ用ニ供スヘシ

○郵便汽船ノ航行ニ付キ千八百六十五年四月二十四日ニ左ノ布達ヲ發シタリ

千八百五十年三月十一日ノ警察規則第六條第十一條ニ因リ縣内ニ左ノ條々ヲ布達ス

(甲) 許可及ヒ許可狀

第一條 縣内公ケノ水路ニ於テ郵便汽船ノ營業ヲ爲サントスル者ハ千八百六十一年六月二十二日ノ法律第一章第四十九條ニ掲ケタル許可ヲ受クル外ニ仍ホ警察官署ノ許可狀ヲ受クヘシ

許可狀ハ汽船及ヒ其器具ノ當否ヲ検査シタル後之ヲ交付スヘシ許可狀ニハ汽船ノ名稱乗客ノ員數及ヒ船内甲板上ニ其員數ノ配當方ヲ記スヘシ

許可狀ハ毎年航行ヲ始ムル前更ニ之ヲ受クヘシ

(乙) 乗組人

第二條 汽船ニハ案針掛(船長)一人機關士一人火焚人一人及ヒ鐘ヲ撞ク者一人ヲ備フヘシ

案針掛機關士ハ滿十八歳以上ニシテ平日醉狂セス身軀精神完全シ且汽船ノ運轉器械ニ熟達シタルヲ證シタル者タルヘシ

(丙) 器具

第三條 汽船ニハ左ノ器具ヲ備フヘシ

秩序警察



一端舟及ヒ綱

二六「ツオル」以上ノ直徑ヲ有スル紅色綠色ノ圓形ノ燈火

三相當ノ鈴

汽船ノ各乗客ノ員數(第一條)ハ船中衆人ノ觀ル所ニ六「ツオル」以上ノ長サアル文字ヲ以テ記スヘシ

最後ノ蒸氣罐檢査ヲ終リタル官署ノ證書ハ之ヲ船中ニ保存スヘシ

(丁) 起業者ノ義務

① 乗組人ニ掛ル義務

第四條 乗組人ハ地方警察官署ヨリ證書ヲ以テ(航行證)其正否ヲ認メタル者タルヘシ(第二條)

毎年航行ヲ始ムル前起業者ハ書面ヲ以テ傭入レタル乗組人ヲ住居

地ノ警察官署ニ届出ヘシ其住居地縣外ニ在ルキハ其他ノ警察官署ヨリ交付シタル證書ヲ縣廳ニ差出スヘシ其届書ニハ乗組人ノ氏名年齢出生地住居地ヲ記シ案針掛及ヒ機關士ニ在テハ仍ホ相當ノ技術證(第二條)ヲ添フヘシ

年内ニ人員ノ交代アルキハ之ヲ届出ヘシ届出タル事件ノ責ハ起業者ニテ負ヘシ

② 汽船ニ係ル義務

第五條 起業者ハ毎ニ汽船ノ規則ニ違ハサル「相當ノ器具ヲ備フル」(第三條)及ヒ人物件ノ水中ニ落ちサル高キ舷ヲ設クル「ニ注意スヘシ」

以上ノ事故ニ付キ運轉ヲ止ムヘキモノハ直ニ其運轉ヲ止メ其事故



ヲ改正スルニ非サレハ更ニ運轉ヲ始ムヘカラス但起業者ニ於テ相  
當ノ罰ヲ受クヘキコトハ格別ナリ

⑧停泊場ニ係ル義務

第六條 停泊場ヲ設クルニハ縣水路建築官ヲ經テ地圖面ニ通テ縣廳  
ニ差出シ許可ヲ乞フヘシ  
停泊場ニハ水路建築官ノ命令ニ因リ相當ノ豫防法ヲ設ケ乗客ノ出  
入ニ危害ナク且出入ヲ便ナラシムヘシ

⑨運轉ニ係ル義務

第七條 起業者ニ於テ期日ヲ定メ一定ノ地方間ニ航行セントスルキ  
ハ拔錨到着表ヲ地方警察官署ニ差出スヘシ其表ニハ拔錨到着ノ期  
日停泊場船賃ヲ記スヘシ

表ハ停泊場ニ揭示スヘシ

此規則ニ背クヘカラス

(戊) 汽船ノ取扱方

①乗客ニ係ル取扱方

第八條 汽船ニハ許可狀ニ記シタルヨリ多數ノ人員ヲ乗セ又之ニ背  
テ船内甲板上ニ人員ヲ配當スヘカラス  
此規則ニ背キタル汽船ハ直ニ其運轉ヲ止ムヘシ

②速力ニ係ル取扱方

第九條 掘割及ヒ狹キ水路ニ於テハ一時間ニ一里以下ノ速力ヲ用フ  
ヘク橋下ヲ通過スルニハ全ク蒸氣ヲ用フヘカラス  
③同一ノ方向ヲ以テ航行スルコトニ係ル取扱方



第十條 同一ノ場所ヨリ拔錨シテ同一ノ方向ニ航行スルニハ一艘ハ必ス十分以上ノ時間ヲ經テ發スヘシ  
同時ニ拔錨スルコトヲ禁ス

㊦夜中又ハ霧アル日ノ航行ニ係ル取扱方

第十一條 日没後日出前又ハ霧アル日ニ航行スルニハ右側ニハ綠色ノ燈火左側ニハ紅色ノ燈火ヲ點スヘシ燈火ハ後ヨリ及ヒ他側ヨリ見ルコトヲ得サルヘク設クヘシ  
其他船首ニハ番人ヲ置クヘシ

㊧號標ニ係ル取扱方

第十二條 船ノ鈴ハ左ノ場合ニ於テ鳴スヘシ

①、拔錨ノ時

㊨ 橋梁水閘滯泊場ニ近ツキタル時

㊩ 水路ニ於テ他船ニ近ツキタル時

㊪ 夕景及ヒ霧アル時

終リノ場合ニ於テハ五分毎トニ鳴スヘシ

蒸氣笛ヲ吹クコトヲ禁ス

㊫他船ニ遇ヒタル時

一廣キ水路ニ於テ遇ヒタル時

第十三條 兩船互ニ遇タル時ハ其場所ノ狀況ニ因リ各右側ニ避クヘシ

汽船ト帆前船又ハ筏ト遇ヒタル時ハ汽船ニテ全ク右方ヘ避クヘシ  
其場所ノ狭キカ爲メニ避クルコト能ハサル時ハ帆前船又ハ筏ニテ汽



船ヲ避クヘシ特ニ汽船拔錨ノ時ニ避クヘシ綱ニテ曳キタル船ニ遇ヒタル時ハ汽船ニテ綱ナキ方ニ避クヘシ

二狭キ水路ニ於テ遇ヒタル時

第十四條 二船ヲ通過スルコト能ハサル狭キ水路ニ於テ一船ノ已ニ狭所ニ在ル時ハ汽船ト否トニ拘ハラズ他船ハ必ス一船ノ通過ヲ待ツヘシ

兩船同時ニ狭所ニ達シタル時ハ汽船ヲ先キニ通過シ他船ヲ待タシムヘシ

兩船汽船ナル時ハ上リ船ハ下リ船ヲ待ツヘシ

兩船同時ニ狭所ニ航行スルコトヲ禁ス

三橋下ニ遇ヒタル時

第十五條 汽船ト他船ト橋下ニ近キタル時ハ汽船ヲ先ニ通過セシムヘシ但他船ハ下リニシテ已ニ橋ヨリ船ノ長サノ所ニ近キタル時ハ汽船ニ先ツヘシ

①他船ヲ乗越ス時ノ取扱

一廣キ水路

第十六條 廣キ水路ニ於テ汽船ニテ帆前船又ハ筏ヲ乗越ヘントスルトキハ之ヲ他船ニ求ムヘシ其請求及ヒ乗越ユル側ハ相當ノ距離ニ於テ汽船ヨリ聲ヲ發スルカ又ハ合圖ヲ以テ帆前船又ハ筏ニ報知スヘシ他船筏ハ又合圖ヲ以テ其返報ヲ爲スヘシ

二狭キ水路

第十七條 狭キ水路ノ入口ニ於テ汽船ヨリ帆前船又ハ筏ヲ乗越エン



トスルハ必ス他船筏ニ於テ之ヲ拒ムヘカラス

①汽船ヲ以テ小船筏川浚舟及ヒ重荷ヲ積ミタル大船ヲ通  
過スルキノ手續

第十八條 汽船ヲ以テ小船筏川浚船及ヒ矮キ舷ヲ有スル重荷ヲ積ミ  
タル大船ヲ通過スルニハ相當ノ距離ニ於テ蒸氣ヲ半力ニ減シ激浪  
ノ爲メ害ヲ蒙ラサシムヘシ他船已ニ近キテ半力ノ蒸氣ヲ用フル  
モ仍ホ危害ヲ蒙ラシムル恐レアルハ全ク蒸氣ヲ止メテ通過スヘ  
シ  
又他船ハ汽船ノ通路ニ航行スヘカラス

(己) 乗組人乗客ノ權利義務

第十九條 案針掛ハ汽船ノ運轉維持船中ノ整頓ニ付キ乗組人乗客ニ

對シ命令ヲ發スルコトヲ得乗組人乗客ハ必ス其命ニ從フヘシ

其命ニ從ハサル者ハ航行中ト雖モ亦之ヲ上陸セシムルコトヲ得

(庚) 乗組人ノ義務

① 總則

第二十條 乗組人ハ其航行證ヲ(第四條)他人ニ貸與スヘカラス常ニ  
之ヲ携帯スヘシ

又船中ニ於テ醉狂スヘカラス

② 船賃

第二十一條 定價表ニ定メタルヨリ過分ノ船賃ヲ求ムルコトヲ禁ス

③ 難船

第二十二條 難船ノハ直ニ運轉ヲ止ムヘシ乗組人ハ直チニ船ヲ離

秩序警察



ルハカラス先ツ危害ヲ除ク處分ヲ爲スヘシ然レモ之ヲ除クヘキ術  
ナク且危害ノ切ナルモハ專ハラ乗客ノ救助ニ盡カスヘシ  
近傍ニ在ル船筏ノ乗組人ハ救助ノ求メアレハ直ニ之ニ應スヘシ  
難船ハ速カニ管轄水路建築官ニ届出ヘシ

(辛) 監督

第二十三條 前數條ノ規則ニ因リ警察官又ハ監督官ヨリ命令ヲ發シ  
タルモハ必ス之ニ從フヘシ汽船ハ警察官又ハ監督官ヲ無賃ニテ乘  
スヘキ義務アリ

(壬) 罰則

第二十四條 此規則ニ背キタル者ハ一「ターレル」以上十「ターレル」以  
下ノ罰金ニ處スヘシ但法律ニ於テ之ヨリ重キ刑ヲ定メタルモノハ

格別ナリトス

乗組人ニテ犯シタル違警罪ノ責ハ案針掛ニ於テ之ニ任スヘシ  
其刑ニ處スル外ニ又犯人ノ航行證ヲ取上クルヲ得之ヲ取上クル  
ニハ管轄地方警察官署ヨリ命スヘシ

(癸) 一般ノ總則

第二十五條 舊來ノ規則ニ於テ此規則ニ違フモノハ廢止タルヘシ  
○千八百七十八年八月七日ノ増補規則

千八百七十六年七月二十六日ノ地方行政權限法第百十五條ニ因リ  
州輔佐官ノ承諾ヲ得タル上布達スルヲ左ノ如シ  
千八百六十五年四月二十四日ノ郵便汽船規則第二條ノ規則ハ小船  
ニ付例外ヲ許スヲ得ル權ヲ「ポツダム」縣廳ニ付與スルモノトス



○電信規則ハ千八百七十二年六月二十一日ノ獨逸法律ヲ見ルヘシ  
航船ニ因リ電線ヲ破損スルコトヲ防禦スル爲メ千八百五十三年六月  
十四日ニ縣廳ヨリ布達ヲ發シタリ  
電線近傍ノ樹木ヲ伐ルコトニ付キ千八百六十九年四月二十四日ニ縣  
廳ヨリ左ノ布達ヲ發シタリ  
舊來電信器ヲ破損スルコトヲ禁制シタリト雖モ電線ノ近傍ニ於テ濫  
リニ樹木ヲ伐ルニ因リ電線ヲ破損シ爲メニ電信ノ通行ヲ中絶スル  
コト屢々アリ  
故ニ電信掛ノ求メニ因リ此弊ヲ除カンカ爲メ關係者ハ必ス樹木ヲ  
伐ル前ニ其都度最近ノ電信分局ニ通知シ官吏ヲ派出シテ之ヲ監督  
セシメ電線ヲ損シタルギハ直ニ之ヲ修繕セシムヘシ

届出ヲ怠リタル者ハ電信掛ヨリ相當ノ損害賠償ヲ擔當セシムヘシ



6718

3092

18







